

令和5年度 「みそのもくもく」 学生の振り返り

(学びのねらいとしている保護者との関わりについて抜粋しました)

【5月～6月】

○今回のもくもくでは、進行や受付も不慣れで、拙い部分もあったと思うが、全体にとっても温かく受け入れてくださっている雰囲気です。随分ほっとした。保護者の方から、「このもくもくがすごくいいの。おもちゃもいいし、学生さんの一生懸命さがすごく好きだ。」と言って頂き、技術は未熟であっても伝わるものが確かにあるのだなと実感できた。

○以上児が新聞紙プールで思い切り遊んだ後、しっぽ取りゲームにほとんどが移り、0～2歳児が新聞紙プールでゆったりと遊んでいた。大はしゃぎする子どもをニコニコと見守っている保護者も多く、0～2歳児と少し離れたところでこじんまりと新聞紙を降らせて遊んでいる親子もいた。「上の子が人見知りで、なかなか遊べないんですよね」という保護者の方としばらく話していると、Sちゃんが恐る恐る新聞紙プールに近づいてきたので、「入ってみる？」と誘うともっと近寄ってくれたので、そっと抱っこして入れてみたら、ニコニコと遊び出すことができた。母親がリラックスすると、子どもは心の警戒を解くことができるのかなと感じた。

【7月～9月】

○今回の主活動は、もくもくの部屋にあるものを積み木と組み合わせて、発想を展開していくというものでした。子どもたちはお母さんと連携をとりながら、遊びを楽しんでいました。私は、「～作ったんだ、すごいね」「ここに～置くんだ、いいね」などの声かけしかできていなかったのですが、蛭田先生が子どもの様子を見て「〇〇ちゃん、こういうの使ってみない？」と、その子が好んでいるものに似たもの、また組み合わせると面白そうなものを提案していました。子どもの遊びが展開していくように、子どもの興味や好みから遊びを広げるためにおもちゃや必要なものをそのときの子どもの状況に応じながら提案していくことの大切さを学びました。

○G君とお母さんが、妖精探しゲームのコーナーにいたので、声をかけ、遊び方を話したが、プイと走りに行ってしまった。「足が速いですね、すごいですね」と話しかけると「友だちと遊ぶときもあだから、続かないんですよ。一人だけ速すぎて、捕まえられないから、他の子が“やーめた”って抜けて・・・ほら」と言われた。何も返せなかったが、表情が明るかったのもので、私はそのままG君を追いかけて行った。友だちと上手く遊べないことを気にしているのだなと思われた。その後見守っていると、ニコニコと母子で遊んでいたのもので、少し吹っ切れた段階なのかなと感じた。もくもくではくつろいで遊んでくれたらいいと思う。

【10月～12月】

○わなげ遊びをしました。なかなか輪が入らない女の子がいて、私と保護者と一緒に応援していました。周りの子どもたちが少しずつ入っていく中で、何度も挑戦する姿があり、なかなか入らない様子に、私も投げるコツや手の向きを伝えたり、「もう少しだね」「おいしい！」「入りそう！」などに見守っていると、初めて一本入ったとき、両手を挙げて私と保護者に「入ったー！」と大きく喜んでいる姿があり、皆で気持ちを共有できました。何度も挑戦し続ける姿は、保護者が後ろで見守ってくれる存在があり、自分で「入りたい」という意欲を持ち続けられるからこそだと感じました。子どもの姿を最後まで見守ったり観察したりすることでその子どもや保護者との関わりを丁寧に見ることによって、初めて心が通う会話ができるようになるのだなと感じました。

【1月～3月】

○1年間の目標として、保護者の方々の思いに寄り添うことができるようになりたい、もくもくを通して専門的な学びを深め、子どもたちと一緒に自分自身も成長していきたいというのがあった。今回の反省会でみんなから多くあがった「保護者との関わり方、きっかけ作り、話題作りが難しい」という意見に私も共感した。最初は私もどう声かけをしたらよいか戸惑いはあったが、保護者の方々はとても優しく接してくれてだんだん慣れていくことができた。S子ちゃんのトイレトレーニングでは、保護者の方からいろいろな話を聞いたり、S子ちゃんの頑張っている様子を見たり、実習では経験できない貴重な経験をすることができた。

○聖園のホームページでもくもくが存在を知ってからずっと気になっていたのもくもくに入れて良かったです。私がもくもくに入って、一番成長できたのは人前に立って何かをすることだと思います。私はとても緊張するタイプで人前に立つことがとても苦手でした。ですが、もくもくに入ってから司会・進行や手遊び、絵本の読み聞かせなど様々な経験をさせていただき自分の中で大きな成長ができたと思います。実習ではあまり関わることのなかった保護者との関わりではもくもくの回数を重ねるにつれ、少しずつ子どものことだったり、私自身のことだったりと色々とお話しすることができました。またよく一緒に遊んでいたTちゃんのお母さんは毎回もくもくに来ると話しかけてくれたのが嬉しかったです。初めは子どもたちが楽しめるようにすることが多かったですが、少しずつ自分も子どもたちと一緒に楽しんでいて時間があっという間でした。保育アドバイザーの遠藤先生がおっしゃっていた通り、子どもたちが楽しめる空間をつくるためにはまず自分が楽しむべきだと感じました。また自分の強み、これだけは負けないという強みを一つ持つておこうと思いました。もくもくを通して、自分から積極的に子どもたちに関わるができるようになったり、人前に立つことで自信をつけることができたと思います。子どもたちがもくもくを楽しみにしている姿やまだ遊びたいという気持ちを残して帰って行く姿を見て、やりがいを感じました。